

### 第3回「県政ひざづめ談議」概要

○開催日時：平成20年5月20日 15:00～

○開催場所：鯉沢町教育文化会館

〔司会〕

皆さんどうもお待たせいたしました。

ただいまから、知事対話の『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。本日、司会進行を仰せつかりました県の広聴広報課長、田中でございます。よろしくお願いいたします。

始めに横内知事からあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

皆様こんにちは。日頃県政に対しましても、また私に対しましても色々ご支援をいただいたり、ご心配をいただいております、心から厚く御礼を申し上げます。今日はまた、それぞれ皆様方お忙しい中を、この『県政ひざづめ談議』にご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

今日は災害をテーマに色々議論をしようということですが、この『県政ひざづめ談議』というのは、もう県民の皆さんいろんな分野でご活躍になっているわけでありませうけれども、ごく普通の県民の皆さんとざっくばらんに、それぞれ今努力をしておられることについて、ご自分の忌憚のないご意見を聞かせていただきたいということで始めたものがございますから、どうか遠慮なさらずにお考えになっていることを、ざっくばらんにお聞かせをいただきたいというふうに思うわけがあります。

四川大地震が発生をいたしました。災害は忘れた頃にやってくると言えますけれども、災害に対する備えというものは一日も欠かすことはできません。とりわけ山梨県の場合には東海地震の発生危険地域に入っております、政府が発表した数字でありますけれども、今後30年間震度6弱の大きな地震が発生する可能性というものは、静岡県に次いで山梨県が全国では2番目に高いという、そういう地域であります。

とりわけ東海地震が発生すれば、この鯉沢町をはじめとするこの富士川流域というのは過去の災害の歴史を見ても大きな被害が予想されるわけがあります。何と云ってもこの富士川の堆積土砂が非常に厚く積もっておりますから揺れは大きいですし、それからいわゆる液状化現象みたいなものが起こってきますし、また地盤が弱いですから地滑りによって川がせき止められてダム状態になって、それが決壊をして水害を起こすなんていうことがありますし、いろんな被害が予想されるわけでありまして、日頃災害に対する備えを特に怠ることができないのがこの地域であります。

地震に対する被害を少なくする方法というのは、これはもう阪神淡路大震災で分かっているんですね、はっきりと。一つは、これは阪神淡路大震災では6千人からの人が死んだわけでありませうけれども、その8割が地震の発生直後に建物が倒れてきたその下敷きになって圧死をしているわけですね。だから大事なことはやっぱり建物をしっかりさせると。耐震改修とか、建物を完全に立派にしなくてもいいんです。完全にべたっとならないようにちょっとしたはすかいをするだけでも、これは命が助かるんですね。そういう建物の耐

震化というのが大変大事であると。

それからもう一つは、建物の中に地震で閉じ込められた、そういう人たちを助け出した8割は決して消防だとか警察とか自衛隊じゃないんですね。消防や警察や自衛隊が来る前にご近所の皆さんが助け出したわけです。8割がご近所の皆さんによって助けられているんですね。ですから今日のテーマでありますけれども、ご近所の皆さんによる防災組織、自主防災組織というものが大変に被害を食い止める上で大事なものでございます。

県下でも、この上北町の防災組織は大変に立派な活動をしていると聞いています。通常は自治会と一体的にやるわけでありまして、ここの場合には自治会とは別の組織を作って、毎年千円ですか、お金を取っているいろんな機材の整備などしていただいているということでありまして、そんなことをお聞かせをいただくのを楽しみにしております。

同時に鯉沢町の消防団の皆さんも日々訓練を怠らずにしっかりと地域住民の安全を守るためにがんばっていただいているというふうに聞いておりまして、そんなご苦労話も聞かせていただきたいというふうに思っております。

繰り返しになりますけれども、どんな話でも、こんなことを言ったらどうも恥ずかしいとかみっともないとか、そんなことを考えずに日頃お考えのことをどうか遠慮なくお話をしていただければありがたいというふうに思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

〔司会〕

ここで本日出席しております県と鯉沢町の担当者を紹介させていただきます。

まず、県の消防防災関係を担当しています窪田消防防災課長であります。

それから鯉沢町の堀口総務課長です。

本日は鯉沢町の自主防災グループをはじめ、地域防災にご尽力いただいている方々と『自助・共助による地域防災力の向上をめざして』をテーマに、自主防災のあり方や課題、それからいつ来るか分からない災害に備えた地域づくりなどの観点で話し合いを進めていただきたいと思いますので、是非忌憚のないご意見をお願いいたします。限られた時間でありまして、参加者全員発言ができるように是非ご協力をお願いいたします。

それではお願いします。

〔参加者〕

こんにちは。たまたま僕が防災長ということでやらせていただいておりますので、18年から自主防災を立ち上げたんですけれども、今までの経過だけ報告させていただきます。

たまたま17年に区長をしていたもんですから、その時のメンバーの知り合いに、南アルプスの防災担当をずっともう何年も、石川市長の時から長らくやっている方がおられて、そんな関係で情報が入ってきまして、絶対地震が来るから何とかしなきゃということで、防災は減災ということが基本で、要するにさっき知事がおっしゃるような形でできるだけ減災をしようということで立ち上げました。

今、全部知事が僕の言いたいことを言っちゃったもんですから（笑い）、あそこまでもう言わないで下さい（笑い）。

基本的に自主防災は、今までどこにある地域の組織も区長イコール防災リーダーという

ことであつたんですが、そうなるとうち毎年毎年変わっちゃうんですよね。そして防災を勉強していくと毎年毎年勉強しなければならないものですから、それができないということと、もう一つ大きなのは区長はやっぱり行政の一環でありますので、何かあつた場合に行政として動かなければならないんですね。

今消防団さんが来ているんですけれども、消防団さんもここが火事になつても、ここが何か潰れても、1カ所、上北だけ来てくれるわけではないですよ。

それともう一つは地震が山梨県に来た場合は、横内知事も地震に遭遇するし、皆さん全員がとにかく被災者になっちゃうんですよ。その時にやっぱりどうするかということで、さっき知事がおっしゃるようなご近所さんの力、NHKでやっている「ご近所の底力」ということで立ち上げてあるんです。

やっぱり地域の防災は、例えば救急車も来ない、消防団も来ない、という時にそれじゃどうするかということが僕らの基本姿勢。それと地震になったら全員が揃うわけじゃないです。なぜかと言うと自分が被災するかも分かりません。防災長をやっている僕がいない時は、誰かがやらなければならないわけですよ。だから基本的には全員が防災リーダーという考え方の中で立ち上げさせていただきました。

そしてやっぱり減災であつて、自分のことは自分でやると。そして今言われている東海大地震ですか、通常は助けに来てくれるボランティアの人たちが、こちらに救援に来てくれるのには最低2、3日は掛かります。大型地震になるとエリアが大き過ぎて、まず僕らの考えだと1週間は来ないだろうと。その時を何とか生き延びようということ考えております。

そんなことで僕の地域というのは世帯数が80世帯、人口が約200人。僕の考え方なんだけれども、小さい所というのはすごく細かい所まで分かります。大きい所というのは分かりません。隣のおじさんがどこにいるとか、今寝たきり老人がどこにいるとか、足の悪い方がどこにいるとかということは、大きな所というのは分からないじゃないですか。僕の所はそれ全部分かるんですよ。地域の小ささを利用して細かなチェックができるということですね。そんなことを考えて始めております。

それとあと情報収集。これは今までも言われているんですけれども、全部の伝達方法というのがアウトになっちゃういますので、それでアマチュア無線を利用しております。そんなことで僕と、今ここで防災無線の免許を持っているのが7名おります。去年5人取つたのかな、その前に3人だったかな、そんなことでアマチュア無線を持っている人がいます。それでやっぱり情報の連絡ということでやらせてもらっています。

そして今までの訓練なんですけど、簡単に申し上げますと、普通の避難訓練をやりました。あと夜間の避難訓練ですね。夜間と日中はまったく状況も違いますので、危ないことがどこにあるか分かりませんのでそれもしましたし、宿泊訓練、図上訓練、あと机上の訓練、これも非常に面白いです。

例えば、今地震が来たらどうしますかという話になるじゃないですか。今知事はここにいるんですけど、今来たらどうしようということなんですけど、それもすぐに危機管理しておかなきゃだめだということやらせていただいております。

結構今になると地震、皆さん関心が高いんですよ。総会では30人ぐらいしか来ないんですけど、防災のことをやると60人、80人、一番多い時は110人とか、やっぱり自分

が大事ですよ。

それであとは組織を一応作ったんですけども、非常に人が少ないんでね、簡単な組織にさせてもらったんですよ。それがうちの組織なんですよね。3つの大きな班に分かれて、救出援護と避難物資と情報広報という形で、これ3つの中の内容は関連のあることを組織づくりに使っております。

そんなことであと一番大事なことというのは情報が欲しいんですけども、家庭台帳を取らせてもらいました。血液型までお願いしたんですけども、誰が、どこに、いついるということが全部分かるように。これ非常に今みんなうるさいじゃないですか、個人情報がこのこうのと。最低の個人情報の共有をしようということをやテーマにさせてもらって。テーマというかも無理やりやらせてもらって、もう僕を信用してくださいと言うしかないものですから、そんなことで家庭台帳を取らせていただきました。これは全部僕が保管しております。金庫のほうに入っております。それがないとあとのチェックができませんので、変化した場合はそれからチェックさせていただいております。

それとあと、例えばその地震で災害にあった場合に、医者がどこにいるとか、看護師さんは誰がいるとか、大型重機の免許を誰が持っているとか、救急救命法をやったことがある人がどこにいるかというのを把握していないと適材適所に人を配置できませんので、その辺のチェックも全部この中でさせてもらって今訓練しています。

一応今現在そんなところまで来ているんですけど、これからはまた後で担当が申し上げますけれども広域的なところを考えてやっております。

〔知事〕

かなり徹底して、考えられる必要なことはもうほとんどすべてやっているという感じがすね。大したものですよ。何かマニュアルみたいなものはあるんですか。それとも皆さんで色々相談しあってこういうことをやろうとか・・・。

〔参加者〕

情報のほうは静岡からもらったり、南アルプス市からもらったり、県のほうからもらったり、ネットでありますよね。それからパソコンに精通した人がいますので、その辺から・・・僕はだめです。僕はだめですけど皆さんからそういうことで情報をもらっております。やっぱり情報は必要ですもの。

〔知事〕

確かに自治会がイコールだと毎年変わるからね、困るよね、自治会長さんもね。やっぱりこの自主防災組織というので、役をやっている人はある程度プロでね半ばね、よく知っててもらわないと困るから、毎年毎年変わるじゃ困るな、確かに。

〔参加者〕

一応リーダーは全員が消防団経験者。それだけは把握しておりました。そんなところでございます。

〔知事〕

大体200人ですから、どこに寝たきりの人がいる、あるいは赤ん坊がいる、それが大体みんな分かっているわけですね。それで皆さんのところは住宅は大丈夫ですか。耐震診断というのがあるんだけど、これだけはただで受けられるんですが、大体やっておられるんですか。

〔参加者〕

うちはやりました。ただ残念なことに、そのあとの木造改修ですね、改修の補助というのが山梨県はもうほとんどない、塩山ぐらいいな今。ほとんどの町村がやっぱり財政難ということで、それに踏み切れてないものですから、何とか県のほうでやっていただければ・・・。

〔知事〕

鰍沢も始めたはずですけどね。去年から始めているんじゃないんですか、鰍沢町もね。2分の1補助で、去年からですか。2分の1補助の内、県が4分の1、町が4分の1ですからね。町がやる気にならんといかんのですが、鰍沢町も去年から始めていると思いますけどね。

ただ金が掛かるんです、そうは言ってもね、2分の1となるとね。そんなに大きな改修でなくてもいいんで、ちょっと筋交いを普段寝ている所とか居間とか、そういう所に打っただけだって、多少かしいでもいいわけですからねそれは、ぺたっとこなければね。大事なことなんですよ。

〔参加者〕

防災長のほうから一度お話ししたんですけど、情報通信というのは、県の防災計画の中でも「情報の収集と伝達」というのが最も重要であるということを謳っていますけれども、今県の中では防災無線を使っていますよね。私達は当然直接防災無線にタッチできませんけど、自分たちの地域の情報を少しでも早く町のほうに伝えたいというためにアマチュア無線の免許を取るんです。そのアマチュア無線を使って、去年の防災訓練の日に、町と通信訓練を行いました。県の方でもこのアマチュア無線というの、もうちょっと防災などに活用していただきたいと思うんです。

〔知事〕

どのぐらいでしょうかね、アマチュア無線を持っている人は、どのぐらいいるんでしょうかね。

〔参加者〕

私はちょうど平成7年から始めまして、南アルプスでいうと500人。鰍沢では30から40人ぐらい。山梨県でどのぐらいでしょうかね。ひときり携帯電話が出る前から比べると、もうめめた状態です。

[知事]

それで今でも皆さんアマチュア無線を使って色々交信をしているんですか。

[参加者]

平成7年から14年間、合併して南アルプス市になった後も情報伝達はアマチュア無線です。アマチュア無線が絶対いいとは思っていませんけど、そういうことでやっています。

[知事]

南アルプス市に500台アマチュア無線があるというのは、やっぱりその防災関係ということで・・・。

[参加者]

そうですね。それでその中で登録させてもらうのが200人。そして各避難所に最低でも張りつけということで・・・。

[知事]

アマチュア無線というのはどうですかね、防災の中では。

[消防防災課長]

県でも確かに防災行政無線とか色々整備しています。災害が起こった時は地上もだめ、空もだめということがありますから、やっぱりアマチュア無線でやっていただくというのはすごく重要になっています。県庁の北別館の6階に、災害本部を開くところがありますけれども、あのエレベーターを降りた所に、アマチュア無線の人たちが来てもらえるように一応スペースは確保してあります。

[知事]

スペースはある。

[消防防災課長]

はい確保してあります。機器のほうは入ってませんけれども。

[参加者]

当時JARL（日本アマチュア無線連盟）さんと協定書結んだ時は、県のクラブもあつたんです。たしか情報センターに専門の人がいますよね、誰か。だけど、どこからか断ち切れたという感じがあつて。

実はそれをもう一回見直そうということで、今年第1回目のアマチュア無線ネットワーク会議というのをこの2月にやったんです。16団体が集まってくれましてね。そして第2回目を6月15日にやろうと実はしているんですけれども、ちょっとその辺で県とのからみははっきりしないので、それが次の段階に移れないという状態にして、次に災害が起きたらどうするんだという話を論議をしたいんです。

[知事]

そのネットワーク会議というのは、アマチュア無線を趣味でやっておられる方が多いということですか。

[参加者]

ほとんど防災をメインで、もちろん趣味でやっている方もいますけど、社会に貢献するという部分がアマチュア無線の場合ありますので、その部分で・・・。

[知事]

趣味よりむしろ防災のために自分で買っているわけですか。

[参加者]

鰺沢も我々も皆ほとんどそういう人たちが多いもので・・・。

[知事]

そうですか。じゃあ全県にそういう人が大勢いるということですね。

[参加者]

今講習会をやっているんですが、それは完全に防災のために資格を取ることによってやってもらうことになっています。

[参加者]

確かに知事、趣味で無線をやっている方というのは、長くやって30年やっている方が大勢いるんですよ。いるんですけども、やっぱり災害に遭った場合には、歩留まりの問題が出ますよね。何台残るかという、被災した後に、通信網がですね。

その時の事を考えるとアマチュア無線というのはすごく有効だと。僕らはまさに防災のために要るんですけども、元々は海外と通信したいという、そういった方も多くいらっしゃるんです。ただ問題になってくるのは、一斉にいろんな周波数を出すと我々も町のほうにデータを送れないということになりますので、そういう時に行政から一声掛けていただいて、あと一声掛けた中でJARLさんと一緒になって、そういう連絡網みたいなものが局にあれば、今度は僕らがまた地域に帰って一人でも二人でも既存の通信網から広めていって、そうすると非常にいい、有効な情報通信網が出るんじゃないかなと私は思うんですけどね。

[知事]

横のネットワークですからね、縦じゃなくてね。

[参加者]

横とかというと僕らも別にJARLさんにデータを上げるんじゃないくて、僕らはあくま

でも町の災害本部にデータを上げていくわけですよね。そこからはもう防災無線で県に上げていく。県は国に上げていくという、そういうことでいいと思うんですけどね。

〔知事〕

今、鰺沢町辺りは防災無線はもちろんありますけれども、各集落はどういうことになっているんですか。防災無線はみんな入っているんですか、大体。

〔鰺沢町総務課長〕

今、ちょうどデジタル化の工事をしています、22年まで掛かる予定なんですけれども、難聴地域もありますから、今回中継施設も新たに加えて、すべての集落に全部が届くようにということで今対応しています。

〔知事〕

集落にはそれぞれ区長さんが何人かの人にその防災無線を置いていて・・・。

〔鰺沢町総務課長〕

そうです。

〔知事〕

そうは言ってもいろんなネットワークがあったほうがいいですからね。

〔参加者〕

少しでも情報の入る入口は多いほうがいいと思うんですよね。

〔参加者〕

私、前に社会福祉協議会に携わったことがございまして、先ほど話がありましたように、2月に全県のアマチュア無線の方たちが小瀬の会場に集まって会議をした時に、都留も防災が結構行き届いていらしいですけど、やっぱりそこの社協の会長さんというか、責任のある方がアマチュア無線を取っていらして、できればそういう町と町との交信も、行政無線ばかりでなくて、そういったアマチュア無線を持っている方が、そういう社協の中でうまく何かあった時に連絡を取り合ったり。

その中で話がありましたけれども、災害等で機材がだめになったりしますと、今は日本アマチュア無線連盟あたりから、機材を貸出ししてくれたりとかあるらしいですよ。

ですからそういう意味でいくと、アマチュア無線の資格を持っている方がたくさんいればいるほど、例えば自分の家が壊れて無線がなくなった場合でも、無線の貸出しあるいは貸与をしてくれたりとかいうふうなことで、災害時なんかは非常に効果的であるというふうなことも知りました。

〔知事〕

資格さえ持っていればアマチュア無線連盟から貸してくれるんですね。



〔参加者〕

神戸の時に実はそういう例がありまして、500台というそういう例が。あの神戸の時にですね。だけどその後残念ながら新潟とかそういう時にはアマチュア無線がみんなどこかに行っちゃったんです。せっかく去年その前にやったんですけど。

阪神淡路大震災以降、行政とアマチュア無線の関係がうまくいかなくて。南アルプスはしっかりやっていますが、山梨県には22の団体があったんです、当時。でもほとんど今残っていません。まあ変なこと言っちゃうけど、要するに訓練も一緒にしない、アマチュア無線はアマチュア無線で勝手にやるという格好ですので、どうしてもそのつながりが悪くて。

南アルプス市は、消防のほうと専門に訓練をずっとやっていますので、一応今残っている、そんなような状態なんです。

さっき言った防災無線の話ですけど、無線というのは交互通行ですから、ある程度訓練をしないと使えないんです。南アルプスでも元甲西町で、訓練の時に、町にあった防災無線をその前の日に区長さんに渡し歩いていくという、こういう訓練の仕方を実はしていたんです。

私たちは、市になった時に、これはちょっとおかしいじゃないかと言ったんですよ。訓練のための訓練になっているんで、まあやらないよりはやったほうがいいですが。区長さんもいきなりもらっても無線を使えないですし……。電話だと簡単に使えますけれども。設備ばかりいくら良くしても、アマチュア無線というのは免許証制になっていますので、受からないとその資格ももらえません。そういう技術的なこともありますので、アマチュア無線がいいということじゃなくて、防災無線と並行した形の中でやっていけば……。

だから新潟でも能登でもそういうものはあんまり発表されていない。特に長岡、あの辺ですと行政、アマチュア無線がじゃあ非常通信をやりましょうかと言ったけど、結局それはそういう普段の備えがないんで結局やらなかったという経過があります。

〔知事〕

アマチュア無線が阪神淡路の後、かなりこれがいいということで普及させたんだけど、そのあと尻すぼみになりつつあるということですね。

〔参加者〕

携帯電話という問題が出てくるんです。

〔知事〕

携帯があるし、防災行政無線もかなり流通してきたということもあるんでしょうね。しかし普段役場に置いてあって、その訓練の前の日に配って歩くじゃ余り意味はないな（笑い）。

〔参加者〕

価格が高いものですからね、すごく高いものですから。

〔参加者〕

消防団として、地域の人とどういうふうにやっついこうかというのが一つの課題なんですけど、先ほど無線の話が出ていましたけども、鯉沢町は一分団、二分団、三分団とあるんです。三分団というのは十谷のほうなものですから、二分団で中継を取らないと無線が通じないんですよ。

携帯電話も一番先は通じなかったが今は通じるんですけど、そういう方法であればできていますけど無線については。ただ消防団として、地震が起きた時にすぐみんな集まってできるかということじゃないと思うんですよ。

現実問題として自分の命を一番先に守るのが一番大事。それから家族。自主防災でも同じだと思うんですよ。自分の家族の確認が取れなくて人の所に手伝いに行くとかは、多分現実には起きた場合、できないと思うんですよ。一日、二日たった後に、知事さんがさっき言ったように助けっこするというような形のことになっていく。

例えば火災が起きても一分団の、上町の所にあるのは消防ポンプ自動車なんです。可搬式だったら何か建物が倒れていても手で持っていけますけど、消防自動車というのは道が入れないと、現実にはどれだけ使えるかというのは現場に行ってみなくちゃ分からない。これが現状だと思うんですよ。

ただ、火事が起きても消火栓はもう使えない、自然水利しか使えないという状況になると思うんです。だから各部長以上の会議の時に、自然水利はどこにあるかということを確認しておくべきということをよく言うんですよ。

私、新潟中越沖地震の時、日本下水道管路管理業協会の関東ブロック、山梨県のメンバーとしてそこへカメラと一式みんな持って10日間行ったんです。カメラとか装備をして、各県からもみんな来ていました、チームが。もうこの時は車は通れるような状態になっていましたけど、まず考えられないぐらいの、どうしてこんなになるかというぐらいの状況にあるんですよ。

〔知事〕

この時は下水は使えていたんですか。

〔参加者〕

結局それをみんな検査して、みんなだめなものは掘り直しでした。

〔知事〕

びろうな話ですけども、避難所なんかで便所が困るよね。それが下水道に直接流せれば一番いいんだけども。

〔参加者〕

下水道も多分使えなくなると思うんですよ。

〔参加者〕

それで知事一つよろしいですか。基本的に町でもって避難所とかを決めますよね。また、県の施設というのは当然災害対策本部だとか、そういうようなところに変わりますよね。前に聞いたんですけど、中越の地へ行ったりしたら、高等学校のグラウンドに避難した人たちは3日間本当にパン一つで生活していて、片方の指定避難所のほうには腐るほど食べ物があったりという、そういう差が出るよという話を聞いたことがあるんです。

実は鰯沢町なんかの場合だと避難所自体の確保が厳しい。僕ら図上訓練をやっていて思うんですけども、逃げ場がないんですよ。逃げ場がないところにもってきて、いざ災害復興でボランティアとか受け入れた場合に、どこを基地として活動してもらったらいいか。今のトイレの話じゃないですけども、ボランティアの方たちに寝泊まりする所とかを確保するために、どこか県の施設だとか土地だとか、そういう所も検討していただけるとありがたいなというような感じがするんですが。例えばここで言うと増穂商業高校とか。

我々の住んでいる上町なんていう所は、はっきり言って実際地震が来たら僕らが避難する場所がどのくらい残るかという状態にもなりかねないんです。いざ復旧する時には、我々だけじゃなくて自衛隊員だとか、この近隣にもし来ていただくにもどこに集めていくかという、我々自主防災としても、ボランティアの受入れというのをこれからのステップでやっていくんですけど、そういうようなところも何か機会があったらご検討いただけるとありがたいなと思っています。

〔知事〕

避難所は一応みんな決まっているでしょう、もちろんね。当然決まっているんですけども・・・。

〔鰯沢町総務課長〕

今年の9月からですけども、福祉センターを耐震補強しまして、上北、富士見町、上（かみ）の辺がそこに避難というような今段取りでいます。

〔知事〕

ボランティアさんが来た時に困るわけだよね。受入れがね。自衛隊はこれはもう自分でテントを持ってきて、便所から何から一切合切だから、これはまあ別に面倒は掛からないけどね。

〔参加者〕

うちの場合どうしても困る場合は河川敷なんですよ。夏で水がなければ河川敷、最悪の時は。平らだし。

〔知事〕

そうですね。自然ダム状態にならなければいいやね、一番。

〔参加者〕

今の話で、増穂商業高校のグラウンドは広いじゃないですか。増穂町なんですけど、あ

あいう所を県のほうから話してもらえればいいじゃないですかね。

〔参加者〕

事前に予定地域みたいな形でセットしてもらえると・・・。

〔知事〕

それはセットしてあるでしょう。まあ予定地域というのはないか・・・。

〔参加者〕

予定地域というのはないですね（笑い）。

〔参加者〕

鰍沢の場合絶対数がないんですね。

さっき防災長が言うように河川敷はあるわけですよ。増穂のように広い所ってというのは、おそらく鰍沢の場合かなり厳しくなってくるんじゃないかと思います。増穂に行くととたんに広がりますよね。

〔知事〕

しかしそれは、町が色々と人口あたりどのぐらいというようなことで計算をして、一応避難所を幾つか手配しているでしょう。

〔鰍沢町総務課長〕

とりあえず避難所は、今の状況でいくと1, 450人ぐらいは公の施設で可能かなという数字は入っています。

〔参加者〕

4分の1ということですね。今、鰍沢4千人。だからほかの人は外で野宿（笑い）。

〔消防防災課長〕

確かに全員行かなきゃだめだということも、最悪のことを考えればあるかもしれませんがけれども、中にはそこそこある程度になったりして、そこを使えるという方もおられる。そっくりでなくてもある程度は大丈夫じゃないかなとは思いますが。

〔参加者〕

そうですね全部がだめになるわけじゃないですね。

〔知事〕

大都会じゃないから、ちょっと歩いて増穂のほうに行ってみたり、もう少し北へでも行けばある程度ね。入れてあげないなんていうことはないからね。

〔参加者〕

先ほどの団長のほうからお話がありましたけども、やっぱり消防団としては突然の火事、それから水害等に対応しなければならない。これは要望も兼ねてですけど、実は今年消防団としてポンプを買ったわけです。17年ポンプを使いました。今実は二分団、三分団のほうでも17年乗っています。

今年もやっぱりうちが分団長やっていた時に買っていただいたわけですけど、やはりどうしてもやっぱり役場のほうとはぶつかる部分もありました。欲しいのはこれだけど、でも予算はこれだと。ですから逆にすぐ欲しいとかというんじゃないんです。17年車に乗っているという感覚を考えた時に、やはり何か、例えばそれが火事でも防災でも構いません。何かあった時に使えなければそれは意味がない。ですから多分ほかの市町村も全部同じだと思います。財政はすごく厳しい状況だと思いますが、ポンプの支給というものに補助金を出せればということで、一つの要望としてです。いろんな式典にお金を使うのも大切だと思います。でも予算を削除できる部分はものすごくあると思うんです。

やっぱり現場の一番末端で働いている消防団は、はっきりいってボランティアです。非常勤公務員といいながら、やはり去年も4回ぐらい水害で出ました。夜中にも出ました。ですけど、それでいろいろな人は一人もいません。みんな飛び出していくわけです。その時にいろいろな物が不足していて、みんな自分の長ぐつを履いて、自分のかっぱを着て、古いポンプを使っているところを見た時、自分が長として思ったのは、こんなこと言ったら失礼ですけど、いろんな式典とか出ますけど、そこでお金を使って防災のことをやるのは必要なのかということなんです。

ですからそのへんのことを踏まえて、例えば、自主防災をやっているところにも何かの補助金を出せるような形とか、そういうことを取っていただければ……。みんな地域のことを思っています。少しでも補助金を出せるような制度をつくっていただければ、いろんな意味でもっとみんなが協力して、いろんなことができていくと思うので、一つの要望ですけど、その辺を何かの機会がありましたら検討していただきたいと思います。

〔知事〕

今、そういう消防施設に対する個別の補助というのはないですね。

〔消防防災課長〕

個別のものはないです。

〔知事〕

一応地方交付税というものを算定して、鯉沢町ならこのぐらいの機材は必要だといったようなことで算定に入ったりしているものだから、県の補助というのはないですけどね。財政厳しいから、中々消防団の皆さんの思いどおりには機材はついてこないですよ。

私も操法大会なんかよく出るけれども、みんな新しい機材を買ってね。あれはもうごく一部であって、大部分の分団なんかはみんな古いやつを使っているということだね。

〔参加者〕

それがいちがいには良いとは言えないですし、悪いとも言えないですけど、やはり末端で働いているというか、一番下でボランティアで一生懸命になっている、自分のことより先に火事だ、水害だといって飛び出していく若い人がいっぱいいてくれます。

みんな一生懸命やっているのに、自分の物を使っていることを考えると、何となく胸が詰まる部分がありますね。ですから、県のほうでも少しでいいですから、できるかぎりのことを考えていただきたいなという意見です。消防団の副団長の意見ではなくて、個人的な意見も含めて今お話をさせていただきました。

[知事]

なるほど、分かりました。

奥さん方、いかがですか。

[参加者]

衣食住の問題なんですけれども、一応食ということになれば、非常食なんか今かなりあちこちで売っていますよね。それも一食何百円という結構割高になっています。それを皆さんに二食、三食と蓄えるということは非常に困難。それで水があれば何とかなるということもあるんですよ。

鰍沢は結構わき水があったり、掘り抜きの井戸などを利用してできるんですけども、地震の場合、起きた後ですね、その掘り抜きの井戸が使えるかどうかというのも一応問題点になっているんです。

そのために浄水器というのが一つ必要になるわけですね。町のほうでも浄水器、かなりの台数は持っているはずなんですけど、それを地域に配布してということがおそらく不可能になってくるんです。ある程度浄水器を自分たちで確保しておかなきゃならない。

それでこれ難しい問題なんです。浄水器を確保するのはいいんですけども、もっと簡単に浄水ができる方法があればお教え願いたいし、またよその地域では水の確保にどう取り組んでいるか、何かあったらお聞きしたいです。

[知事]

避難所には浄水器ぐらいあるでしょう。そうでもない・・・。

[消防防災課長]

どうですかね・・・。

[鰍沢町総務課長]

今鰍沢町に浄水器は14台あるんです。この辺を本町地域と言うんですけど、本町地域に拠点1カ所、それから中部地域という真ん中の地域に1カ所、それから五開地域に1箇所です。3カ所の拠点にある防災倉庫に浄水器を配置しました。

[知事]

倉庫の中にね。なるほど。

〔参加者〕

その件について、私どもインターネットで浄水器のことを調べています。やっぱり水があれば何とかなるんですね。炊き出し訓練をやった時に、うどんとかそば類なんかが一番簡単ですが、一番水を使うんですね、すすいだり、冷やしたりというように。山梨はおすいとんなんていうのが今あります。そういうものだとうどん粉を練って入れるだけで一食の支度はできます。だから水の確保というのが今の上町の防災の課題になっているんです。だからもしそういう浄水器の安いところがあるとか、何かありましたら情報をいただきたいなと思います。

〔鯉沢町総務課長〕

帰って情報があるかどうかちょっと調べてみます。

〔参加者〕

ただ変な話なんですけど、上町のうちの場合は当初、いつも来ているんだけど酒屋さんがいるんですよ仲間にね。つぶれたらとりあえず飲み水だけはそこから確保すれば、ペットボトルで例えば30本、50本あれば一時的には一日ぐらいは大丈夫じゃないですか。

今の話は、その後どうするかということなんですけど。あと米なんかもそうなんですけど、燃えなければ、米屋さんがあればある程度供出してくれるんじゃないですか。つぶれないうちからみんなで出し合って一時しのぎはできるんですけど、それが長期になるとちょっと難しくなりますよね。今の話で水は最低必要なものですから。

それでまあ・・・、今一番うちの防災会として必要なもの、道具というのは浄水器です。

〔参加者〕

水がなければおすいとんも作れない。

〔参加者〕

（訓練時の写真を指して）このすいとんを作った時は水道を使っていないんですよ。タンクの水を使っているんです。水道も一切、電気も使わず・・・。

〔知事〕

タンクの水というのは何ですか。普通、福祉センターとか何とかにみんなタンクがあるんですか。

〔参加者〕

事前に汲んで、洗うのも水道を一切使わない。できるだけ実践に近い状況で。

〔参加者〕

一食はできたんです。この次がどうか分からない・・・。

〔参加者〕

だからあそこに写真もありますけどね、一応訓練をああいふうにやっているけどもほとんどシナリオを作らなくて、集まった人間で自分たちができることをまずやりましょうということで、その時に現場に来てからの人員の配置とか、そういうことをやって、常にシナリオはもう作っておりません。出たところ勝負じゃないですけど、そういう格好でやらせていただいております。

〔参加者〕

これは静岡がよくやっているんですよね、シナリオがない発災型ということで。どうしても山梨の場合はシナリオを作っちゃって、もう準備万端でやるやり方をやるんですね。そうするとすぐ訓練のための訓練で。

〔知事〕

確かにね。県庁の職員なんかでもそういう訓練をやっているところがありましたよね、埼玉県でね。日曜日か何かにとたんに災害が発生したということでどうするかとやってね・・・。

〔参加者〕

私はよく静岡県にお邪魔をするんですけどね。県も社協も、もう総合的にやって、防災リーダーも800名という人数を抱えています。そして毎年訓練も全国の人たちを呼んでやっているんです。私、その訓練にお邪魔をするんですけどね。ものすごいレベルですね。山梨もそういう技術的なレベルでね、物量的なものでなくて、頭で考えれば、お金を掛けなくてもできる訓練を県レベルでやっていってもらえばいいかなと思っています。

〔知事〕

訓練というのは本当大事で、自覚と訓練と言いますよね。いざ地震が起こった時に自分は何をするんだということをいつも頭に入れておいて、訓練の時にその練習をするということが大事ですよね。訓練も年何回かおやりになるんでしょうが、今日は訓練だよと言ってぱっと集まって、それでどういうふうにするんですか。

〔参加者〕

大型な訓練はあるんですよ。宿泊訓練しましょうとか、炊き出し訓練しましょうとか、救出訓練しましょうとか。例えば救出訓練なんかもそうなんだけど、来た人たちに配置をどういうふうにして、どこへどの人が情報班がどういうふうに通っていて、そこで情報をもった時に誰が救出に行くのか、どういう状況かというのを全部無線でやってもらって、それから今車椅子が7台あるんですよ。車椅子で搬送するのか、担架で搬送するのかを、状況を見ながら全部判断して、それなりの指示を与えるんです。

それと僕がいつも言っているんだけど、僕もいないかもしれないけど、この3人がいないかもしれないよということが前提なんですよ。だから皆さんが防災リーダーになってもらわなければ困りますよというのが基本なんです。そうしないと本当の災害になった場合、



シナリオというのは本当はないですから、その訓練をやっている。

〔知事〕

鰺沢は上北町がそうやって一生懸命やっているんだけど、周りの自治会はどうなんですか。あれだけみんな上北町が一生懸命やっているんだから、俺たちも同じように一つやろうやと、こういうことにならないんですか。

〔鰺沢町総務課長〕

町長さんと防災の日に4、5カ所地域の部落を回るんですけど、ある程度は取り組んでいるんですけど、上町みたいにここまではやっていないですね。

〔知事〕

皆さん方はそれぞれみんな自分の自宅に3日分の食料だとか水だとか、それから色々あるじゃありませんか、懐中電灯みたいなものとかね。ああいうものはみんな備蓄していて、いざとなればすぐ取り出せるようになっているんですか。

〔参加者〕

私持ち歩くんです。これも防災バックです。

〔参加者〕

今も上町のほうの自主防災に3年ぐらい、準備期間を入れると3年ちょっとぐらい経つんですけど、大分いろんなノウハウを取り入れて、今では、ほかのところから上町すごいねというふうな話があります。今、防災長と今度は少し招待を受けるというよりも、こちらから押しかけていって、こういうふうなものを作ったらどうだという、少し先進区として、自主防災のリーダーとして、少しずつ呼び掛けをしていこうということを計画しております。

そうじゃないと、上町はいいんですけど、隣の区であっても関心はあるんでしょうけど、話だけで終わっちゃう部分があるので、やっぱり立ち上げをやらしてもらおうと。

こういうふうなことをやり始めたのも、そんなにお金掛かっていないんですよ。もういろんなことをやりますと、皆さん色々と協力してくれて、おじいさんが使ったつるはしがあるから持っていってくれとか、梯子の古いやつがあるから持っていってくれとか、一輪車だとか、それから今の車椅子7台とか。

〔知事〕

どこかに備蓄倉庫があるわけですね。

〔参加者〕

備蓄倉庫があります。そこへ7台も、あるところからはもうパンクしちゃって使えないもの、だめだから直せば使えるよなんていうものをもらってきて直したりとかしていましたし、寄付してくれたりとか。やっぱりそういう啓蒙運動というんですかね、そういうこ

とは絶対に大事だなというふうに思います。

大分ちょっと先進区になりましたので、少しあっちこちちょっと歩いて、だめだよやらないというふうなことをやっていこうと思っています。

〔参加者〕

知事、一つ要望があるんですけど、僕らもいろんな講習会とか会議に行きますけど、各町村によって、防災に対する温度差がすごくあるように感じるんですよ。先ほど知事もおっしゃられたように、まさに、これから自主防災を育てないと、できるだけ減災にならないというのは事実だと思うんです。それだけの人員と規模が投入ができない、お金も投入できないなんていうのは当たり前の話ですから。

我々みたいな自主防災組織のようなものを育てないことには、絶対に大きな被害を食い止めることはできないと思うんで、もっと県レベルでも各町村の指導、またこういう自主防災会の指導、まあできれば若干助成金も出してあげればありがたいんでしょうけれども、そういうことも踏まえて、もうちょっと温度差のところを、是非とも機会がありましたら指導とかをお願いできればと思いますね。

〔知事〕

今はどこの町村も熱心になってきましたけれども、かつては余り防災防災、災害、地震が危険だ、危険だなんていうと町のイメージを壊すといったようなことで、余り熱心じゃない所もありましたよね。気持ちは分からんじゃないだよね。余り東海地震で危険だ、危険だなんていうとね来る人も来なくなっちゃうじゃないかなんて心配しちゃって。しかしこれは命に係わることですからね、やっぱり。これはやっぱりきちんとやらなければいけないと思いますよね。今はどこの町村もみんな一生懸命取り組んでいますね……。だから、耐震改修なんかについても全町村が行っていると思いますが、今。

〔消防防災課長〕

まだそこまではちょっと行ってないです。

〔知事〕

全町村までは行ってないけれど、大部分のところはもうみんなやり始めましたね。まあその通りですね。大分温度差がありますよ、確かにね。

〔参加者〕

まあ皆さんが言ったようにできるだけ我々でやるんですけども、県のほうとしてもある程度、多少はそういうような助成ができれば、より自主防災の活動が活発になってくると思いますので。その辺をよろしくお願いしたいと思います。

〔知事〕

そうですね。

〔参加者〕

こうやって防災組織を立ち上げる段階で、予算的に主に救出道具とか、そういうものにちょっと費用が掛かるので、そういうものに補助してくれるような制度があれば、各地区で組織を立ち上げるのも積極的になるんじゃないかなと思いますので、是非お願いしたいと思います。

〔知事〕

救出道具というのは最低限どんなものが・・・。ジャッキとかですか。

〔参加者〕

そうですね、大バールですとか、チェンブロックもあれば非常に使えるかなという感じですか。あと一輪車ですとか。中にはチェーンソーがいないから寄付するとか、そういう方もいらしたので大分助かっています。そういう補助などがあれば本当に立ち上げやすくなると思います。

〔参加者〕

私の場合は青果業をやっているもので、万が一の時には少量の食料なんかを供給するつもりです。うちがつぶれない限りは、出せる食料は出せるようにということで準備もしていますので。幸い僕もメンバーに入れていただいて何とか下っ端のほうでがんばっています。

〔知事〕

それはご苦労さんですね。心構えがいいよね。いざ地震となればうちの店の物はみんな・・・(笑い)

〔参加者〕

先ほどから話がありました炊き出しですけど、そうめんとおすいとんをしたんですけど、みんなで結構協力してできて、いい経験になったと思います。

〔知事〕

やってみて炊き出しは何が一番簡単ですか。普通米でおにぎりなんか・・・。

〔参加者〕

この間はそうめんやったんですけど。おすいとんをしたのがやっぱり一番早く、先ほども話にありましたけれども、おすいとんなんかは割と簡単にできて、結構みんなおいしい、おいしいと、だしをたくさん入れたりして好評でした。

〔参加者〕

もう一つよろしいですか。実は消防防災課の課長さんにもお願いしたんですけど、まちづくり交付金でありますよね、あれを是非鯉沢町にも何とか出していただきたい。

実は南アルプス市が去年いただきまして、可搬式のポンプからなにかから全部フル装備で  
きましてね。是非鯀沢にも。

〔参加者〕

よろしくをお願いします（笑い）。

〔知事〕

何か消防防災課で出しているものがあるんですか。

〔消防防災課長〕

県単ではないです。

〔知事〕

まちづくり交付金という制度はあるんですよ、確かにね。あれはただ通常ハードなんで  
すけどね。道路だ公園だなんてね、ああいうような感じなんですけど、ただ交付金の中でソ  
フト的なことにも使えるんですよ。だから防災もおそらく施設整備をして、合わせてそう  
いう資材・機材をそういうのを揃えたんでしょうね。

〔参加者〕

一生懸命やってるものに、みんな出してもらえるとね。

〔司会〕

それでは最後に感想も含めて知事からあいさつをお願いします。

〔知事〕

皆さん、だけどこれだけ活躍していれば、表彰状だ何だみんなもらっているでしょう（笑  
い）。

ありがとうございました。大変貴重なお話を聞かせてもらいまして、本当に皆さん方が  
みんなで結束をして、また色々と知恵を出し合いながら、それぞれお店の方はお店の物  
をお出しになったり、あるいはいろんな形でご努力をなさっているということを聞いて、本  
当に大変素晴らしいことだなと感激をしました。

確かにこういう上北のような例が鯀沢町全体あるいは山梨県全体に広がっていくことが  
大事だなと思っておりまして、我々もそういう一つの皆さん方のやり方をモデルにしながら、  
この自主防災組織をさらに全県に広めていくように努力をしたいというふうに思っ  
ております。これからも色々と教えて下さいますようによろしくお願ひしたいと思  
います。どうもありがとうございました。（一同拍手）

〔司会〕

ありがとうございました。もし言い足りないようなことがありましたら、また思いつ  
いたことがありましたら県政クイックアンサーというような制度もありますので、コンピ  
ュ

一タ、インターネットから、または役場にも用紙があります。そういうもので質問とか、それからご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

本日はありがとうございました。